

巻 頭 言



日本音楽療法学会 副理事長

松井 紀和

新世紀だミレニアムだと騒がれたのも、いつの間にか過ぎ去って、新世紀がどんどん流れている昨今である。変わったと言えば変わったような気もするが、何も変わっていないと言えば変わっていない気もする。しかし、前世紀から引き継がれた不況の波は一向におさまりそうもなく、回復の見通しも混沌としており、多くの人が何とかならないのか思いつつ、一方では、何ともならないのではないかという悲観的見方もしているというのが実情ではあるまいか。そこで、驚くようなことが政治の世界でも起こって来た。内閣支持率の未曾有の高率を見ていると、もう我慢できない早く何とかしてくれと多くの人達が叫んでいるような気がする。しかし、改革は大きな痛みを伴うことをどの位自覚しているのだろうか、まかり間違えば、組織滅亡にもなりかねない危険を抱えていることがどの位自覚されているだろうかと考えると不安にもなってくる。

本学会は、新世紀と共に発足し文字通り洋々たる船出であることは間違いない。しかし、通常のスクラップアンドビルドとは違う方法で二組織の統合が行われたので、そこには沢山の課題が持ち越されている。目下多くの役員の方々がその整理に努力しておられるわけであるが、当然と思っていることが当然ではないとか進歩していると思っていることが退歩であったりという食い違いも起こってくるわけである。しかも組織

固めだけしていれば良いのではなく、対外的には、どんだん学会としての意思表示をしていかなければならない状況もあることは皆様御存知の通りである。このような状況の中で私達は学会員として行動していかなければならない。また会員のニードも単純ではない。本学会位多様な人達が集まった学会も少ないであろう。会員のニードに応えていくことも大変なことである。そこで、私は、会員の皆様に、暫くの間、ある程度不満に堪えていただくしかないだろうと申しあげたいと思う。しかし、だからと言って、ひたすら我慢してくださいと言っているのではなくて、学会の組織が固まる迄は、色々な人達の色々な意見が必要であり、組織が固まった後も、組織が活性を保つためには常に内外からの圧力が加わっていることが必要だと集団力学は教えている。

ともあれ、私達は音楽療法を推進する学会を組織したのであり、音楽療法が質的に向上し、同時に拡がりを持つことを期待していることはおそらく多くの会員のコンセンサスであろう。そこで、何はともあれ、日常の音楽療法活動を大切に精進することが何よりも大切なことで、音楽療法が市民権を獲得するか否かは、私達が決めることではなく、治療をうける立場の人達が決めることで、その成否は一つ一つの治療の成果にかかっているということを忘れないで欲しいと思う。

日本音楽療法学会第1回学術大会開催に当って

篠田 知璋 日本音楽療法学会常任理事
第1回学術大会実行委員長

臨床音楽療法協会と日本バイオミュージック学会が統合して一団体として発足してすでに6ヶ月目にならんとしている。会員数も5000名を超え新世紀に向って前途洋々、という感がある。学術大会は、会員の業績の発表の場であり、皆が学習し、一貫した音楽療法を形造ってゆく貴重な研修の場である。さらに、社会的にも音楽療法が正確に認識され、評価されるための啓蒙の場となろう。これらの事柄を意図して大会の準備が現在行われているが、2002年1月の開催まで2ヶ月余りとなった。現在、都内在住の実行委員の方々は、日夜その準備に大忙しで活躍され、実行委員長としての私は、委員の方々の情熱と行動に感動し、心から感謝している昨今である。また、会員の方々の参加申込みもすでに1000名を超し、応募演題数も330に達している。

会員諸氏にとっては、この1年余り研究実践の業績を発表する場が殆どなかったと思うが、今度の大会が唯一の場である方も多数居られると思う。従って、今回の大会は、一般演題の発表を主として、講演、シンポジウムを最小限にしぼった企画を立てたが、演題数が330では全ての発表を2日間の会期では処理できない現状である。よって、プログラム委員会により厳選させていただき発表可能な演題数、220を選定した。

なお明年度には、全国各支部も設立され、支部毎に、学習、

研修、そして業績発表の場が数多くもたれることが予想され、会員の方々に福音を与えることが可能となろう。

大会が開催されるパシフィコ横浜は、港の中に建てられた素敵な建物で環境も大変ロマンティック、そしてくつろげる空間である。このような恵まれた環境で皆さんの頭脳も大いに冴えて、充実した学習成果を得られると思う。奮って参加されたい。

さて、今大会のシンポジウムでも取り上げる問題の一つでもあるが、将来音楽療法士の法制化および音楽療法の保険適用がなされると音楽療法士はいよいよ医療職の仲間入りをすることになる。わが国の医療は全てチームワークの中で遂行される。また、音楽療法士にとっても全ての医療職と綿密な協力を持つことにより、音楽療法の効果が一層得られることをすでに承知しているはずである。だから、私たち音楽療法士は、他の医療職の人々と仲良く、力を合わせてゆけるように、コミュニケーションの技術を研ぎ、また、クライアントたちの心情を汲み取り、かつ、クライアントたちの心に沁み透る音（話し声を含む）、音楽を演奏することができるように、己れの心を如何に耕すかに専念してほしいものである。21世紀の新しい全人的医療において、音楽療法士の果す役割は、大変大きいものと確信しているが、その意味からも皆さんの努力を期待するのである。



日本音楽療法学会に期待すること

村井 靖児 日本音楽療法学会常任理事
第1回学術大会実行副委員長

1998年新春、海の向こうで、2つの性格・考え方の異なる音楽療法組織が合体した。アメリカのNAMTとAAMTである。元はと云えば1つの組織だったものが、四半世紀以上にわたる分裂の後、再統合したのである。アメリカの音楽療法の第2の船出と言えよう。

時やや遅れて、わが国でも日本バイオミュージック学会と臨床音楽療法協会が名実ともに統合を果たした。日本音楽療法学会丸の船出である。

広辞苑によると、学会とは、「学者相互の連絡、研究の促進、知識・情報の交換、学術の振興を計る協議などの事業を遂行するために組織する団体」と説明されている。このことで、自分も学者になったと喜ぶ人もいるかも知れないが、自分は学者などではないと怒り出す人もいるだろう。これまでも著名な学者で学会に入らなかった例は随所にある。学会

は任意団体であるから、入会は本人の自由だからである。しかし音楽療法界では、今、学会に入らないと認定が取れないと云って学会に入る人が大勢いる。

ところで2つの異なる性格の会が、しかし結局は同じことを目指している2つの会が統合出来たことは、わが国の音楽療法の前途にとって、非常に喜ばしいことである。学問をすすめる者にとってこれほど刺激的なことはない。

日本の音楽療法が今しなければならぬことは、研究を促進することだと言えよう。学会が研究の場だということは、そこで常に新しい発見が目指されているということである。新しい理論、新しい事実が提示され、それがまた次の新しい理論や、事実を生み出す刺激になって行く。領域が拡大し、異なる方法論と出会い、正に医学と音楽と教育と福祉の学際的学会が誕生した。

そういう訳で、来るべき大会では、熱気のコもった討論を期待したい。もしかすると、最初はすさまじい激論になるのかもしれないが、しかし学会は論争があることが普通なのである。情熱が冷えマンネリになった学会ほど退屈なものはない。皆が、思うことを存分言って、学会の質の向上に役立てて欲しい。時には会内部での不都合も起こるかもしれない。しかし不具合は、どこにでもある。ハーモニーを取り戻すこ

とは、音楽療法の得意技であるから、瑣末なことでお互いの友好のきずなにひびが入るようでは、音楽療法の名が泣くというものであろう。会員諸氏の良識に期待したい。

今はまず、第1回大会を成功させることである。来年1月には、会員全員がパシフィコ横浜にご参集くださることをお願いする。

◎ 第3回講習会

- 対象：初級および中・上級者
- 日時：2002年1月18日（金）
- 会場：パシフィコ横浜 会議センター
- 実施方法：講演方式 初級者：4コマ 中・上級者：12コマ 以上より4コマ選択
各講義の時間内に多肢選択方式の試験があります。基準以上の得点者には、通常取得ポイントの2倍となる受講証明書(A)が授与されます。
- 参加費 研修・講習会（4コマ） 一律8,000円
- プログラム * 申込状況は10月19現在のデータで、講習会申込者は1,250名です。

	初 級		中級/上級	
9:30~ 11:00	A 音楽療法の現場① 障害児 MGW研究所 都築 裕治 心療内科 牧野クリニック 牧野真理子 申込484名（定員644席）	B 資格認定と更新、 将来的展望 東邦大学 坪井 康次 申込231名（定員230席）	C 臨床倫理 金沢医科大学 北本 福美 申込195名（定員230席）	D 記録と評価： 障害児・者 洗足学園大学 塩谷百合子 申込336名（定員394席）
11:15~ 12:45	E 音楽療法の現場② 精神科 杵築オレンジ病院 熊本庄二郎 高齢者 音楽療法ネットワーク三重 伊沢 径世 申込516名（定員644席）	F 論文の書き方 洗足学園大学 二俣 泉 申込390名（定員394席）	G 介護保険をめぐって 聖徳大学 郡司 正樹 申込110名（定員230席）	H 記録と評価： 精神科 たなか病院 齋藤 考由 申込233名（定員230席）
14:00~ 15:30	I 資格申請/ カリキュラム 東海大学 志水 哲雄 申込394名（定員394席）	J スーパービジョン 日本臨床心理研究所 松井 紀和 申込231名（定員230席）	K 音楽療法の関連職種 横浜相原病院 市来 真彦 申込184名（定員230席）	L 記録と評価： 高齢者 島根大学 手塚 実 申込440名（定員644席）
15:45~ 17:15	M 記録と評価：初級 宮崎女子短期大学 山下 恵子 申込391名（定員394席）	N 遊戯療法 文京女子大学 横山 剛 申込449名（定員644席）	O 関連職種との連携 洗足学園大学 松井 晴美 茨城県立医療大学 山崎 郁子 申込180名（定員230席）	P 発表の行い方 横浜相原病院 村林 信行 申込229名（定員230席）

◎ 問い合わせ先

第3回講習会及び第1回学術大会全般に関して
第1回日本音楽療法学会学術大会事務局
〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12-406
TEL 03-3234-7825
FAX 03-3234-7827
事務員勤務日時：月～木曜午前10時から午後5時

登録申込に関して
(株) コンベックス
第1回日本音楽療法学会学術大会担当
〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-22
一乗寺ビル
TEL 03-3589-4422
FAX 03-3589-3974

第1回近畿学術大会（第2回全国大会プレ集会）の報告

大前 哲彦 日本音楽療法学会理事
大阪音楽大学教授
第1回近畿学術大会実行委員長

日本音楽療法学会第2回学術大会のプレ集会として9月1日、2日に武庫川女子大学を会場に表記の大会を開催した。森忠三大会長を中心にした34名の実行委員が10回の準備会をもって開会にこぎ着けたものである。

全国大会のプレ集會を企画したのは、学会としての社会的役割を果たせるような大会準備を考えることから出てきた。それは、音楽療法実践を理論的にサポートする研究活動が発展する契機になる大会、そして、社会的な認知を広げるような大会ということで、外国の音楽療法家を招聘して講演を聴くという段階は終わったと考えた。そのためには音楽療法の基礎研究や事例研究の発表の場に加えて、学会としての共通課題について研究協議する場を大きく位置づけることである。

まず、日本の文化風土に根ざした音楽療法を解明する課題、そして、音楽療法における変化や効果を客観化する方法の解明、また、音楽活動と音楽療法の違いを明らかにし、療法的音楽技術の教育体系を確立していくことなどがあろう。講習会（409名の参加）で栗林文雄会員に依頼した「音楽療法と施設内音楽活動の違い」に関する講義や石村真紀会員による講義は、この共同研究の発火材として成功した。

これらは、学会全体に関わる課題であるが、大会を準備する近畿地区でも学会の課題研究活動の一翼を担い、大会企画に反映していくことを考えた。そのために、まず、近畿地区内の学会員が顔を合わせ、交流することから始めなければならなかった次第である。

研究発表の応募は90件あり、1件につき3人の審査委員を委嘱し、A（発表該当）、B（一部修正して発表該当）、C（発表非該当）の評価をしていただき、BBC以上であった79人が発表した。A4版100頁の『発表要旨録集』（¥1,000）を参照されたい。私は臨床音楽療法協会第5回大会の実行委

員長を担当した経験を持っているが、当時と比べて格段の進歩を実感した次第である。それは僅か3年前であったが、音楽畑出身の方々が多いところから研究発表というスタイルに慣れていないためと推定していたわけであるが、音楽療法の社会的な認知をえるうえで前途多難を覚悟したのが嘘のようであった。

研究発表は7会場を用意し、午前と午後にかけて2人ずつの座長のもとに進められた。各会場にはビデオとOHC（OHPより高性能）が常設されており、発表者も快適に発表できた。実は、第2回全国大会の会場として京都、大阪の国際会議場を検討したが、会場費などが、非常勤やボランティアで音楽療法に勤しんでいる一般学会員の実情に合わないところから2500人のホールを保有する武庫川女子大学に泣きついたわけである。その下見を兼ねた大会であったが、申し分のないものであった。

この機会を利用して近畿支部の結成総会を開催した。これは、上記と同じ主旨であるが、学会本部から全国の役員に対して支部結成への協力依頼が届いたことに応えたものである。その場合には800人近い地区内に在職・在住しておられる全学会員に案内状を送って開催しなければならず、この機会を逃しては実質的には無理なことが明らかになったからである。結成総会は成功裏に終わり、支部会則と事業計画（『近畿音楽療法学会誌』の刊行など）、2001年度予算を決定し、役員を選出して日本音楽療法学会第2回学術大会に向けて協力の輪を大きくし、近畿における音楽療法の定着と発展のために力を合わせることを確認して閉会した。支部の発足は理事会に申請して承認を求める事項であるから詳しい報告は別の機会にゆずりたい。